（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援センター七色学園			
○保護者評価実施期間	令和7年　2月25　日	～	令和7年　3月　11日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	26	（回答者数）	21
○従業者評価実施期間	令和7年　3月　3日	～	令和7年　3月　7日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9	（回答者数）	9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　4月　15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人ひとりの特性に寄り添った支援の提供	お子様一人ひとりの特性や気持ちに寄り添いながら、個性を尊重した関わりを心がけています。日々の遊びや活動の中で、「楽しい」「できた」が積み重なるように、支援の工夫を続けています。	より良い支援を提供できるよう、定期的に支援内容を振り返る時間をもち、職員間での情報共有や学びの機会を大切にしていきます。
2	子どもたちにしっかり向き合える職員体制	人数や支援の状況に応じて、基準以上の職員配置を行っています。お子様と丁寧に関わるための時間を確保できることが、安定した支援にもつながっています。	チーム全体で支援に取り組む体制をさらに強めるため、日々の業務の中で連携の仕方や役割の見直しを行い、働きやすさと支援の質の両立を目指します。
3	保護者とのつながりを大切にした対応	保護者の方との日々のやり取りやご相談を通じて、家庭との連携を大切にした支援を実施しています。お子様の成長や変化を一緒に見守り、共有できる関係作りを心がけています。	連絡帳や面談に加えて、電話やLINEなどを活用しながら、保護者の皆様が安心してやりとりができる環境づくりを進めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の支援に対する視点や理解の深さに個人差がある	職員間の話し合いや連携は丁寧に行われ、チームとして支援に取り組む体制は整っている一方で、支援に対する視点や実践の深さに個人差がみられる場面があります。	今後は共通の支援観をさらに深めていけるよう継続的な学びや振り返りの機会を大切にしていきたいと考えています。
2	ICTやデジタルツールの活用が今後の課題	支援や事務業務の一部にアナログな方法が残っており、業務の効率化や職員の負担軽減の面で改善の余地があるように感じています。	アナログな方法も生かしつつ、少しずつICTの活用を進めることで、支援の質の向上や職員の働きやすい環境づくりにつなげていきたいと考えています。
3	地域への情報発信やつながりづくり	日々の支援には力を入れていますが、地域の方々に対して、当事業所の取り組みを十分に発信しきれていない面があります。	今後は事業所の取り組みや雰囲気がより伝わるような発信を通して、地域の方々との交流を深めより良い支援を提供できるように努めていきます。